

## 2019-21 役員会 議事概要

日時 令和 2年 1月23日(木) 10:13~10:40  
出席者 学長, 山本, 緒方, 尾西, 梅川, 伊藤(公) 各理事  
列席者 富樫, 野崎, 橋本, 西村, 鶴岡, 松田, 吉松, 吉本, 富本, 伊佐地 各副学長  
服部, 山中 各監事

### I. 審議事項

学長から、1月9日の拡大役員打合会で協議、了承、及び1月15日の教育研究評議会で審議、了承された次の事項についての説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

1. 三重大学における日本学術振興会特別研究員に関する規程の一部改正について  
(1/9 拡大役員打合会→1/15 教育研究評議会)
2. 外国人教員の増加策(案)について  
尾西理事から、「資料：審-2」に基づき、令和2年度の外国人教員の増加策(案)についての説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 大学教職員の採用等協議について  
企画総務部人事労務課長から、「資料：審-3」に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
4. その他  
なし

### II. 報告事項

1. 令和元年度資金運用状況(第3四半期分)について  
財務部長から、「資料：報-1」に基づき、令和元年度資金運用状況(第3四半期分)についての報告があった。
2. 医学部附属病院収支報告  
伊佐地副学長から、「資料：報-2」に基づき、医学部附属病院収支、並びに現在の病院稼働状況と今後の病院稼働方針についての報告があった。  
(主な意見)
  - 平均在院日数に関する意識改革は良い取組みである。スタッフの疲弊感を減らすために人員を増やすことが収益のマイナス要因にならないように、診療科毎の平均在院日数を適正化したときの収益の予測値についてシミュレーションをした方が良い。
  - スタッフが増えることは人件費増とリンクするので効率化が非常に大切である。患者にとっても経営効率の面からも、適正な在院日数と収益に関しての見える化が必要だと思う。  
→在院日数については患者を第一に考え、適正な期間となるように言っている。
  - 医師を除く病院職員人件費率が、国立大学の病院の中で三重大学がいちばん低いのは何故か。  
→常勤職員の比率が低いことが原因と考える。国立大学の病院の常勤化率を比べても、三重大学はかなり低い。もう少し常勤職員の雇用について考えていかなければならない。

3. その他  
なし

以 上